

3. 大規模災害時（特に震災時）の対応



中央防災会議で検討対象とした大規模地震

東海地震

予知の可能性のある地震

30年以内の地震発生確率：88%

西日本全域に及ぶ超広域震災

東南海・南海地震

30年以内の地震発生確率：
70%程度（東南海地震）
60%程度（南海地震）

老朽木造市街地や文化財の被災が懸念

中部圏・近畿圏直下の地震

首都直下地震

30年以内の地震発生確率：
70%程度（南関東で発生する
M7程度の地震）

20mを超える大きな津波

日本海溝・千島海溝 周辺海溝型地震

不明（東北地方太平洋沖地震
前の宮城県沖地震の30年以内
地震発生確率：99%）

我が国の中枢機能の被災が懸念

南海トラフ

日本海溝

千島海溝

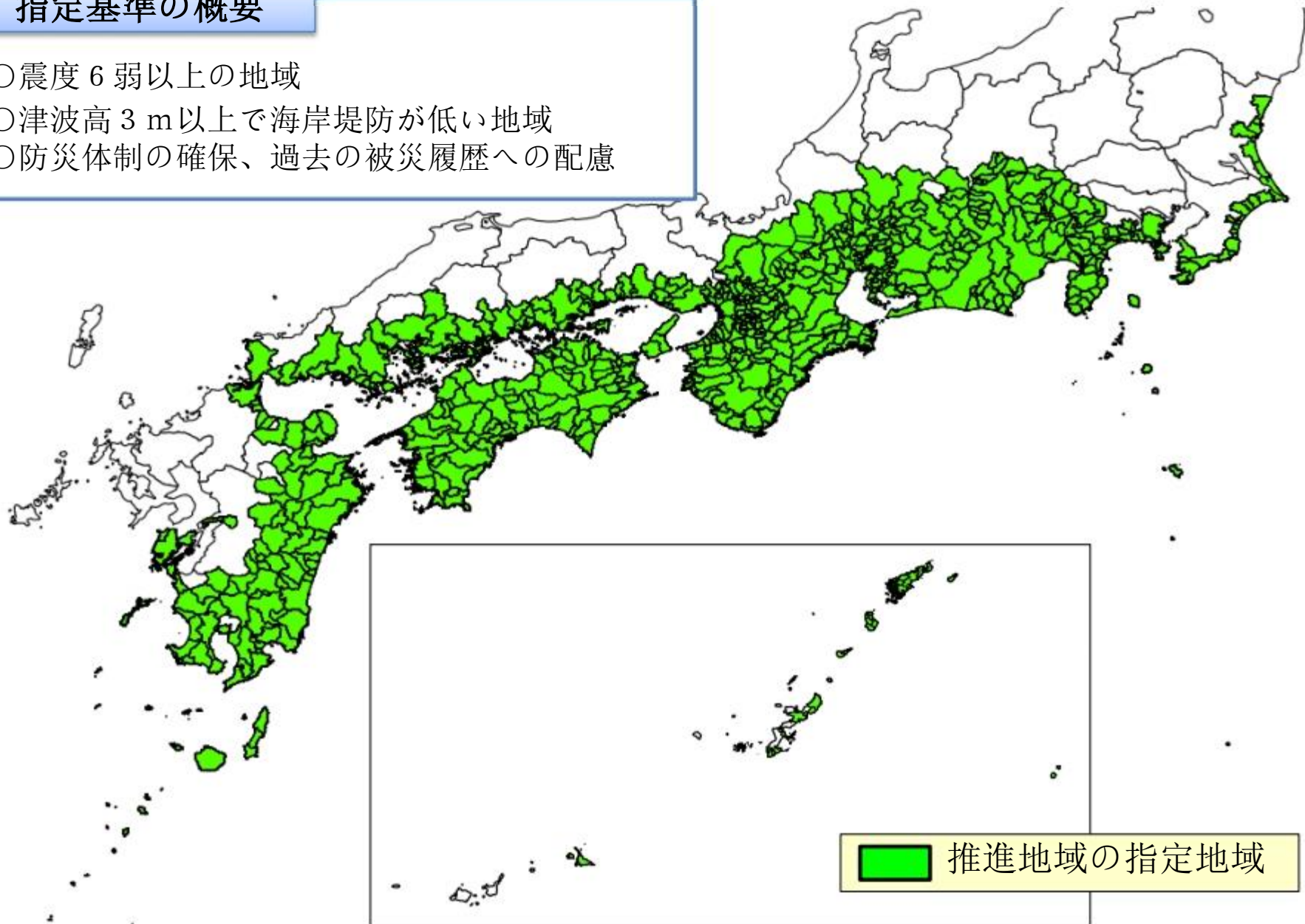
- 海溝型地震
- 直下型地震

地震発生確率は文部科学省地震調査研究推進本部による
(2012年1月1日現在)

南海トラフ地震防災対策推進地域の指定

指定基準の概要

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上で海岸堤防が低い地域
- 防災体制の確保、過去の被災履歴への配慮



腎移植患者は透析患者よりも災害には強い

➤ **透析患者**はライフラインの途絶えたなかでも透析実施できないと致命的。透析環境への配慮が必要。

→2016年4月14日の熊本地震（震度7）では**他施設への移送**や**透析時間の短縮**を余儀なくされた。

『熊本地震における腎不全患者の問題と対応』 腎移植内科研究会第2回学術集会

➤ **腎移植患者**は災害時の制限は透析患者と比較して少ない。

東日本大震災での状況

- 水不足のため、手洗いなどの衛生行動が出来ず、いくつかの避難所では嘔吐・下痢が流行した。

南海トラフ巨大地震では東日本大震災以上の被害も予想されます
十分な備えが必要です

- 栄養状態がある程度回復するまで数週～1ヶ月以上要した。

災害時に備えて

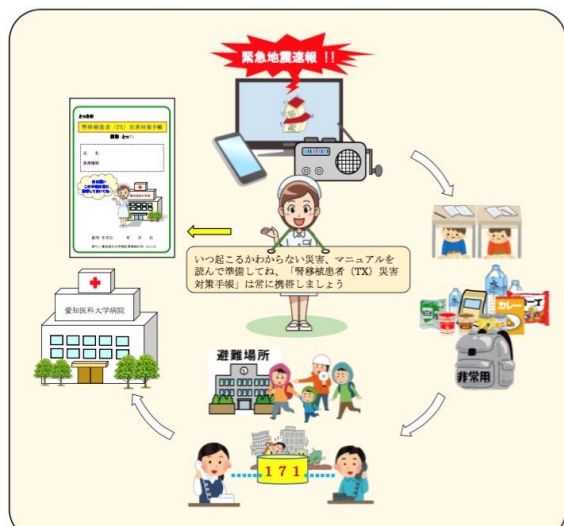
➤ 愛知医科大学病院腎移植外科では

① 腎移植患者 (TX) 災害対策マニュアル

② 腎移植患者 (TX) 災害対策手帳を作成し、配布。

腎移植患者(TX)災害対策マニュアル

第1版



とっさの

腎移植患者 (TX) 災害対策手帳

愛称 : とつT!

氏 名 :

医療機関 :

※お願い
この手帳は常に
携帯しておいてね!



配布 年月日 : 年 月 日

発行 > 愛知医科大学病院 腎移植外科 2017.05

腎移植患者が特に注意すべきこと

1. 感染予防

2. 免疫抑制薬の内服継続

1. 脱水予防

普段から準備しておけること

1. 非常持出し品を準備

➤ 感染予防

サランラップ、ウエットティッシュ、除菌スプレーなど



➤ 免疫抑制薬の内服継続

- i. 免疫抑制薬の予備をストック（目安として**1週間分**）
- ii. 来院できない場合に備え、近隣医療施設の連絡先を確認
- iii. お薬手帳のコピー



普段から準備しておけること

➤ 脱水予防

水2L/日×3日分

備蓄食品も3日分 可能であれば**多め**に

- * **野菜入り**のものがあるとよい。
- * 高温多湿の保管場所は避ける。
- * 半年ごとに消費期限・賞味期限を確認し食品や薬を定期的に交換しましょう。



➤ その他

地域の防災訓練に参加

避難場所の確認

家族で集合場所を決めておく

普段から準備しておけること

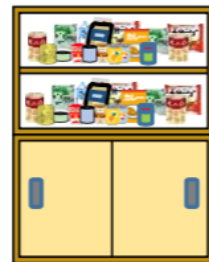
(参考) ローリングストック法

【備蓄食品を半分消化】



日常生活で古いものから消費

買い出しへ



【備蓄食品の量をキープ】

被災時に注意すべきこと



まずは**身の安全の確保**を優先

被災時に注意すべきこと

安否確認

* 家族の安否確認などでは**災害伝言用ダイヤル（171）**が利用できます。体験利用も一度やってみましょう。

* 被災時には**電話回線は繋がりにくい**



* **メール**や**SNS**での連絡が有効



被災時に注意すべきこと

➤ 避難所に着いたらかかりつけ医へ連絡

- 氏名、連絡先、被災状況、健康状態などを報告
- 担当医師から治療の確認・指示を受けましょう

* **病院も被災**します

もしかかりつけ医に連絡がとれなかったら…

①直接病院へ出向く

②病院まで遠い場合は最寄りの医療施設に連絡して受け入れ可能か確認する

③NTT災害ダイヤル等で医療施設の被災状況を確認する方法もあります

被災時に注意すべきこと

避難所での生活

- 集団生活になるため**マスク**をつけて**手洗い・うがい**をしましょう。



- 尿路感染予防のために**こまめに排尿**しましょう。

- **食品は直接手を触れず**サランラップやビニール手袋をしましょう。加熱できるときは**できるだけ加熱**してかき混ぜるようにしましょう。



被災時に注意すべきこと

NEWS

記事一覧

速報◎2016年熊本地震

車中泊の28人が肺塞栓症に、うち2人死亡

2016/4/19

三和護＝編集委員

f シェア 934

B! ブックマーク 0

G+

ツイート

余震が長引く中、避難している人、特に車中泊をしている人の間で肺塞栓症のリスクが高まっている。新潟大学大学院呼吸循環外科の榛沢和彦氏によると、4月19日11時までに、車中泊の28人が肺塞栓症を発症し、うち2人が死亡した。

「これは緊急事態だ」と指摘する榛沢氏は、対策として「弾性ストッキングを車中泊全員に配布すべき。国が率先して取り組むべきだ」と話している。

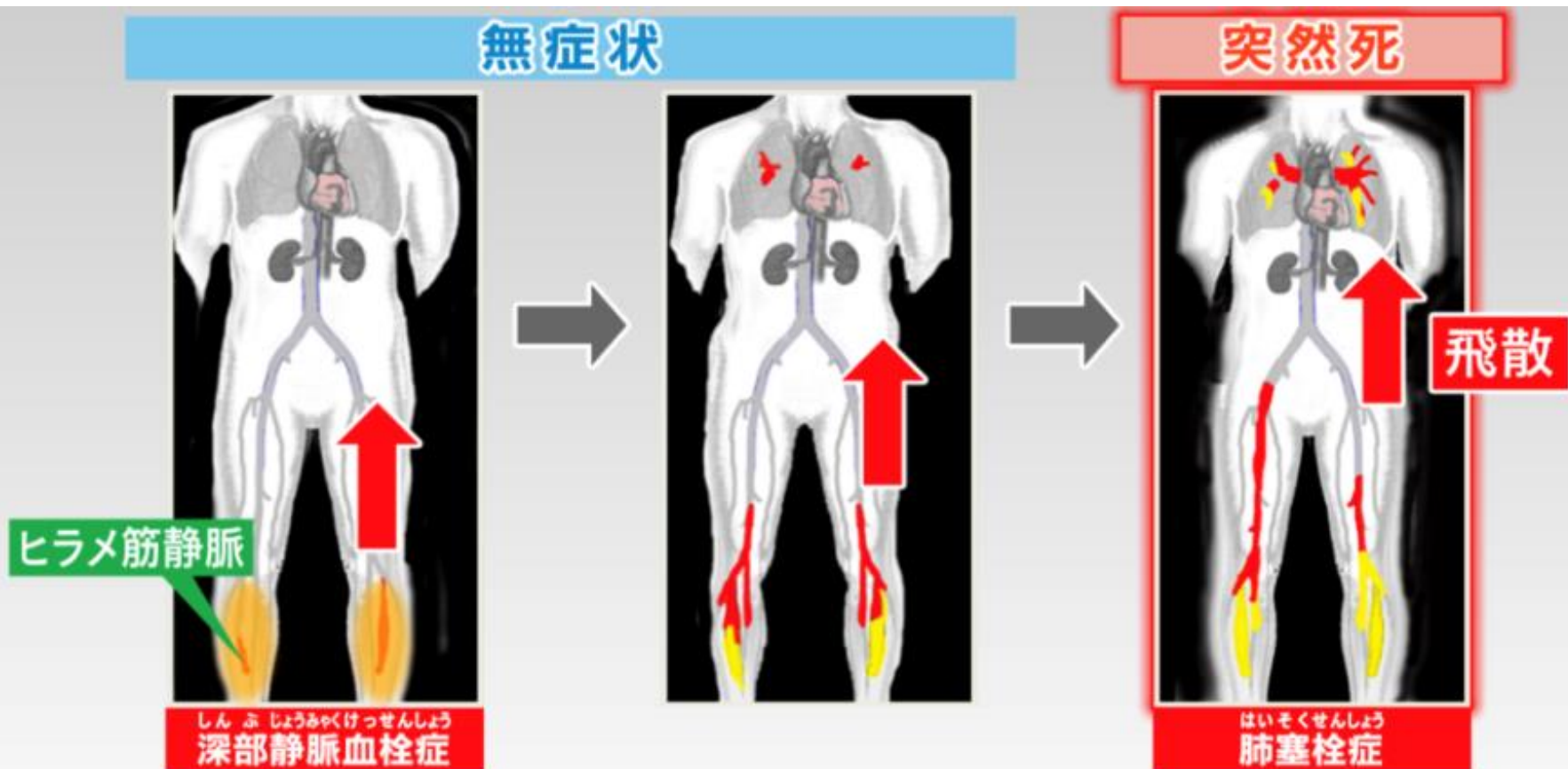
肺塞栓症（いわゆるエコノミークラス症候群）については、厚生労働省もホームページの「平成28年熊本地震関連情報」に、「深部静脈血栓症/肺塞栓症



新潟大学大学院呼吸循環外科の
榛沢和彦氏

被災時に注意すべきこと

エコノミークラス症候群



作成 聖マリアンナ医科大学法医学 呂准教授

被災時に注意すべきこと

エコノミークラス症候群の予防

数時間ごとに歩く

弾性ストッキングを履く

水分補給

車中泊を避ける(1泊で発症した報告あり)

打撲したら包帯や弾性ストッキングで圧迫



老若男女、各世代に大きな恩恵のある
腎移植を有効に選択し
一日でも長持ちさせられるよう努めていきましょう
災害時の備えも忘れずに



以上です。

ご清聴ありがとうございました。

今回の講演スライド作成にご協力頂いた先生方、スタッフ
(特に二村健太先生、鳴海俊治先生、渡井至彦先生、愛知医大 渡邊 恵さん) の
みなさんに深く御礼申し上げます。